

巻頭言

著者	土 隆一
雑誌名	地学しずはた
巻	11
ページ	none-none
発行年	1956-08-01
出版者	静岡大学教育学部地学研究部
URL	http://doi.org/10.14945/00005979

卷 頭 言

この春から夏にかけてはよく学生諸君と海へ出かけた。もちろん底質と底棲生物の採集にである。地学は地質ばかりでなく天文学から海洋学まで含むわけだから海へ行つても山へ行つてもよいわけだが、地質と山とを得意とされる諸君にとってはさすがに船の上ではクリノメーターどころのさわぎではなかつたようだ。もつともゴム長をはいて胴乱にリュックを背負つたかつこうはどう見てもどこへ行くのか見当がつかない。

エクマンの箱型採泥器もはじめのうちは30米の深さまで使うのがやつとだつたが、この頃では使い方もすっかり上手になり駿河湾で65米の深さまで使えるようになった。船や潮流の動きは地層と違つてなかなかわからないで閉口した。

『地学しずはた』も10回すでに号を重ねて愈々第11号である。これも段々と深く広くなりそうだし、育ててきた甲斐があつたとつくづく思う。今後も海、山、空、星の動きをみんなでどしどし『しずはた』の誌上に捉えて行こう。